学校番号	３００１

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「最新　数学Ⅱ」　（数研出版）						
副教材等	パラレルノート　数学Ⅱ						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では課題に対してまず自ら考え、次に周りと協力して考えていく活動をします。
・プリントごとに確認テストを行い、定着の程度を計ります。
・問題集は定期考査ごとに提出してもらいます。日頃から少しずつでも進めて、定着に努めましょう。
・プリントは授業ごとに提出してもらいます。板書だけでなく、自分の考えや周りの人の考えも積極的に記録しましょう。

2　学習の到達目標

三角関数、指数・対数関数、微分の考えについて習得する。
基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、数学に良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	三角関数、指数関数・対数関数、微分において、基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。また、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、三角関数、指数関数・対数関数、微分における数学的な見方や考え方を身に付けている。	三角関数、指数関数・対数関数、微分の考え方に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	微分法と積分法	・平均変化率と微分係数 ・導関数 ・いろいろな関数の微分 ・接線 ・関数の増減 ・関数の極大、極小 ・関数の最大、最小 ・方程式、不等式への応用 ・不定積分 ・定積分 ・定積分の性質 ・面積	a:関数の導関数を求めることができる。 導関数を利用して微分係数や接線の方程式を求めることができる。 関数と導関数の関係を理解し関数の増加、減少、極値を調べグラフの概形を書くことができる。 関数の増減やグラフを調べることで関数の最大・最小を調べることができる。 関数の不定積分を求めることができる。 不定積分を用いて定積分の値を計算することができる。 積分の考えを利用して囲まれた図形の面積を求めることができる。 b: 導関数の定義を利用して、関数の定数倍、和、差の導関数について簡単に求める方法を考察できる。 導関数のグラフから、もとのグラフがどのような形になるか考察できる。 関数が極値をもつ条件について説明できる。 積分の考えを利用して面積を求める方法を考察することができる。 c: 具体的な事象から平均の速さ、瞬間の速さについて考えている。 グラフを利用して関数が導関数とどのような関係にあるのかを説明しようとしている。 導関数のグラフからもとのグラフがどのような形状になるか考	定期考査 ノート	定期考査 問題集	配信課題 学習予定表 授業態度 発表、発言

			えようとしている。定積分の性質を用いて、定積分を計算する方法について考えようとしている。 積分の考えを利用して、面積を求める方法を考えようとしている。			

2学期	三角関数	・一般角 ・弧度法 ・三角関数 ・三角関数のグラフ ・加法定理 ・加法定理の応用 ・三角関数の合成	a:一般角に対する三角関数の定義を理解し、三角関数の値を求めることができる。 三角関数の相互関係などの基本的な性質を理解している。 三角関数のグラフの特徴について理解し、与えられた三角関数のグラフをかくことができる。 三角関数の加法定理について理解し、与えられた三角関数の値を求めることができる。 与えられた三角関数を合成することができる。 三角関数の合成を利用して最大値、最小値を求めることができる。 b:座標を入れ替えたり、符号を変えたりしたときの動径が表す角と三角関数の値との関係を考察したり、説明したりできる。 三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察できる。 単位円を利用して三角関数の加法定理について考察することができる。三角関数の合成をグラフや加法定理と関連付けて考察することができる。 c: 座標を入れ替えたり、符号を変えたりしたときの動径が表す角と三角関数の値との関係を考えようとしたり、説明しようとしている。 三角関数の式とグラフの関係について多面的に考えようとしている。 単位円を利用して三角関数の加法定理について考えようとしている。三角関数の合成をグラフや加法定理と関連付けて考えようとしている。	定期考査 ノート	定期考査 問題集	配信課題 学習予定表 授業態度 発表、発言

3学期	指数関数と対数関数	・指数法則 ・指数関数とそのグラフ ・対数 ・対数関数とそのグラフ ・常用対数	a:指数法則を理解し、指数法則を用いて数や式の計算ができる。 指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解し、指数関数のグラフをかくことができる。 指数関数の性質を理解し、指数関数を含む方程式や不等式を解くことができる。 指数を対数の形に表すことができる。 対数の意味と基本的な性質について理解し、簡単な対数の値を計算することができる。 対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解し、対数関数のグラフをかくことができる。 対数関数の性質を理解し、対数関数を含む方程式や不等式を解くことができる。 常用対数の意義を理解し、常用対数表を用いて、値を求めることができる。 b: 指数を整数へ拡張したときの指数法則について考察することができる。 累乗根の定義から累乗根の基本的な性質について証明することができる。 指数関数の値の変化やグラフの特徴について、表や式、グラフを相互に関連付けて多面的に考察することができる。 指数と対数の相互を関連付けて考察することができる。 対数関数の値の変化やグラフの特徴について、表や式、グラフを相互に関連付けて多面的に考察することができる。 対数関数の性質を用いて、数の大小について判断することができる。 c: 指数関数の値の変化やグラフの特徴について、表や式、グラフ	定期考査 ノート	定期考査 問題集	配信課題 学習予定表 授業態度 発表、発言

			を相互に関連付けて多面的に考えようとしている。 指数と対数の相互を関連付けて考えようとしている。 対数関数の値の変化やグラフの特徴について、表や式、グラフを相互に関連付けて多面的に考えようとしている。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度